

再評価結果（平成21年度事業継続箇所）

担当課：有料道路課

担当課長名：上野 進一郎

事業名	東海北陸自動車道 （白鳥～飛騨清見）		事業区分	高速自動車国道	事業主体	国土交通省及び 中日本高速道路(株)
起終点	自) 岐阜県郡上市白鳥町那留 至) 岐阜県高山市清見町夏厩			延長	4.1 km	
事業概要	東海北陸自動車道は、中部圏を南北に縦断し、かつ名神高速道路と北陸自動車道を結び、中部圏における骨格的交通網の中核を成し、東海地域・北陸地域の一体的発展に大きく寄与する路線である。					
S61年度事業化	都市計画決定		—	S63年度用地着手	H11年度工事着手	
全体事業費	2,630億円		事業進捗率	約66%	供用済延長	4.1 km
計画交通量	12,500台/日 ~ 14,000台/日					
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.5 (残事業) 1.1	総費用 (残事業)/(事業全体) 547/3,679億円 事業費：489/3,113億円 維持管理費：59/566億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 623/5,376億円 走行時間短縮便益：510/4,124億円 走行費用減少便益：90/941億円 交通事故減少便益：23/310億円	基準年 平成21年		
感度分析の結果	残事業について感度分析を実施					
交通量変動	B/C=1.3 (交通量 +10%)		B/C=1.0 (交通量 -10%)			
事業費変動	B/C=1.0 (事業費 +10%)		B/C=1.2 (事業費 -10%)			
事業期間変動	B/C=1.2 (事業期間 -1年)		B/C=1.1 (事業期間 +1年)			
事業の効果等	日常生活圏の中心都市へのアクセス向上が見込まれる 主要な観光地へのアクセス向上が期待される 三次医療施設へのアクセス向上が見込まれる 他13項目に該当					
関係する地方公共団体等の意見	東海北陸自動車道は、東海地域と北陸地域を直結し、両地域の産業・経済・文化の振興と活性化に不可欠な路線である。暫定的な2車線は、走行性・安全性に問題があることや交通量の増加が予想されることから、岐阜県知事を会長とする東海北陸自動車道建設促進同盟会より4車化事業の整備促進の要望（平成20年7月）を受けている。					
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	平成20年7月の東海北陸道全線開通以降交通量は増加し、平成20年の平均交通量は11,000台/日となり、H17~H19年度に21回の渋滞が発生している。					
事業の進捗状況、残事業の内容等	4車線の用地取得が完了し、暫定2車線にて供用中。残事業の内容は4車線化工事。					
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	暫定2車線にて供用中であり、4車線化工事の進捗を図る予定。					
施設の構造や工法の変更等	新技術・新工法や現地の状況変化も確認しながら積極的にコスト縮減を図っていく。					
対応方針	事業継続					
対応方針決定の理由	以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は満たしており、事業実施の目処が立っている。					
事業概要図						

□ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの